

平成29年 第2回香取市総合計画審議会 会議概要

開催日時： 平成29年6月26日（月） 午後1時30分から4時30分

開催場所： 香取市役所7階 全員協議会室

出席者： <委員>

浅野文男委員、石井良典委員、大川裕志委員、金親孝夫委員、菅谷長藏委員、
平山茂治委員、伊藤寛委員、堂下浩委員、関謙次郎委員、圓藤弘典委員、
鈴木恵子委員、中村伸也委員、栗田智委員、鵜崎昭一委員、奈良律子委員、
香取浩委員、椎名宥心委員

<事務局>

総務企画部企画政策課

有限責任監査法人トーマツ

欠席者： 武田好久委員、高岡正人委員、實川美香委員

議題：

- (1) 香取市高校生アンケート実施結果について
- (2) 第1回かとりの未来まちづくりワークショップ実施結果について
- (3) 基本構想骨子（案）について
 - ・基本構想骨子（案）の構成について
 - ・将来都市像「目指すべき姿」を表すフレーズについて

配布資料： 会議次第

委員名簿

資料1「香取市高校生アンケート報告書（案）」

資料2「第1回市民まちづくりワークショップ実施結果」

資料3「第2次香取市総合計画 基本構想骨子（案）」

資料4「基本構想部分「まちのあるべき姿」を表すフレーズに係る検討の経緯」

参考資料：香取市総合計画後期基本計画概要版《平成25～29年度》

議事内容：

1 開会

2 諮問・副市長挨拶

諮問書 読み上げ 手交

【副市長挨拶】

第2回香取市 総合計画 審議会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、ご多用にもかかわらず、本審議会にご出席を賜り誠にありがとうございます。

ただ今、第2次 香取市総合計画（案）について、会長の堂下様へ諮問書をお渡しさせていただきました。

今後、委員の皆さまには、第2次香取市総合計画をよりよいものとするために、調査、ご審議をいただき、答申をお願いするものであります。

本日は、基本構想骨子（案）の構成 並びに 市の将来像「目指すべき姿」のフレーズについて、ご審議いただくことになっております。

第2次香取市総合計画の策定にあたっては、公募委員は勿論、幅広い分野から 審議会に参画いただいておりますことから、皆さまには、様々な視点から、忌憚のないご意見を賜り、活発な議論をお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

（副市長退席）

3 議事

議題（1）香取市高校生アンケート実施結果について

資料1「香取市高校生アンケート報告書（案）」について、事務局から説明。

市内高校に在籍する高校3年生を対象とし、702名から回答を得られた。

市の魅力と市への愛着に関する問いに対しては、「歴史的資源」、「伝統や文化」、「自然」といった項目がいずれも上位を占めるなど類似していることから、市の魅力の要素が地域の愛着の醸成と関連していることが推測される。

一方で、香取市に対する愛着を問う設問に対して、「好きではない」「あまり好きではない」と回答した方の理由として、「交通の便が悪い」「買い物が不便」「レジャー施設がない」といったものが上位に挙げられた。これらは、将来の定住意向を問う設問において、「戻る希望はあまりない」と回答した方の理由の回答傾向と非常に類似していることから、香取市が好きではない理由と若年層が地域を出た後にUターンを行わないことと関連があることが推測される。

今後のまちづくりの重要度を問う設問に対して、現行の後期基本計画を策定した際に実施した市民意識調査と比較したところ、「観光」「自然環境」「歴史文化の継承」の項目において、大きくポイントを上回るなど強く関心を示す一方、「高齢者」に関する取組み、「道路や上下水道」などインフ

ラ整備や「工業」の推進は、大きく下回っていることから、関心が低いことが見受けられる。

総括すると、高校生アンケートと市民意識調査の結果を比較すると、回答傾向に大きく隔たりがあることから、将来を見据えたまちづくりを検討する上で、高校生の意見を市政に取り組んでいくことが重要であると思われる。

【中村委員】

高校生アンケートの実施目的について、市民アンケートでは対象外となっている高校生の意見を取り入れることで市民意見を補完すると事務局からの説明があった。結果をみたところ、市民アンケートと高校生アンケートとの結果の比較にとどまっている。市民全体の意向をまとめた結果がわからない。

【事務局（トーマツ）】

今回の調査は、現行の香取市後期総合計画の策定時に実施した市民意識調査と平成 29 年実施の高校生アンケートとの結果を、参考として比較している。平成 29 年 9 月頃に市民意識調査を実施予定であり、市民全体の意向は、今後実施の市民意識調査を実施した後に整理する予定である。

【中村委員】

市民意識調査と高校生アンケートを取りまとめた全体の結果を反映して総合計画は作成されるのか。

【事務局（トーマツ）】

各種調査の結果を反映しながら総合計画を策定していく予定である。

【奈良委員】

佐原地域の出身者が回答者に占める割合が多い印象であるが、出身地の詳細を知りたい。

【事務局（トーマツ）】

回答者の出身地に関しては、資料 1 の 2 ページ問 1（3）に記載している。

【奈良委員】

報告書に登場する「乖離」という表現があるが、少し難しい表現に思われる。

【事務局（トーマツ）】

現在資料として配付しているものは「香取市高校生アンケート報告書（案）」であり、報告書の確定版作成の際は、難解な語句は平易な表現に変更する。

【堂下委員】

佐原在住者の回答と佐原以外在住者の回答の回答傾向の違いについて把握してみてもどうか。例えば、佐原在住者と佐原以外在住者の回答結果を比較するなど、サンプル数を100以上にまとめ、佐原在住者とそれ以外の地域の在住者にまとめ直して分析してみてもどうか。

【奈良委員】

山田なら農業、佐原なら祭といったように地域特性があるように、若者が地域に戻る、残るといった行動にも地域ごとの傾向があるように感じている。

【事務局（トーマツ）】

回答者の地域ごとの傾向については既に分析しているが、地域ごとに回答者を分類するとサンプル数（回答者数）が小さい地域もあり、統計的に有意な分析となりにくい状況となっている。ご提案いただいたように、回答者属性をまとめなおして分析すると、何らかの傾向がみられる可能性がある。

【堂下委員】

回答者の居住地域を佐原地域と佐原以外の地域に区分し、アンケート結果を再度分析し、次回の審議会の際に報告してほしい。

【圓藤委員】

協議に先立って資料は送付されており、すでに一覧している。協議の場では、資料の説明よりは意見交換などを中心に進めてほしい。

【圓藤委員】

これまでに子ども子育て会議や総合戦略等で調査がすでに実施されており、その結果として、様々な問題提起がなされている。すでに提起されている問題や視点を今回の総合計画策定に活用すべきだと考えている。

【堂下委員】

総合計画の策定に際して、他の会議で議論された視点も活用してほしい。以前、圓藤委員が参加された別の会議では、高校生からの活発な意見や提案があった。圓藤委員には、そのような意見があったことを審議会でも伝えてほしいと考えている。

【椎名委員】

総合計画審議会委員のうち女性が3人しか居ないことを少し残念に思う。より女性の参加を活発にし、意見を聞いたほうが良いのではないかと考える。市民意見のバランスを考え、総合計画を作成することが肝要と考えている。少数派の意見にも耳を傾けつつ、香取市民一人ひとりの意見を反

映してほしい。

【堂下委員】

各委員の視点を生かしながら、今後の分析を検討して欲しい。

【奈良委員】

資料1の8ページ問2（4）において、回答項目が類似しており、回答しづらい設間になっていると感じた。

【堂下委員】

比較対象の回答項目に変更を加えると、調査結果の比較が困難になると考えられる。総合計画の市民アンケートを実施する際は、項目をある程度まとめるなど、工夫をお願いする。

議題（2）第1回かたりの未来まちづくりワークショップ実施結果について

資料2「第1回市民まちづくりワークショップ実施結果」について、事務局から説明。

5月13日に実施した「第1回まちづくりワークショップ」では、「市の将来の姿を考える」をテーマに総合計画の基本構想部分にあたる将来都市像「目指すべきまちの姿」のフレーズ検討を行った。

ワークショップでは、高校生グループ2班を含む8つのグループに分かれ、まず香取市が一丸なり実現したい取組の検討、香取の強みと香取らしさの抽出、さらに実現したい未来のまちの姿を検討し、そのアイデアを比較検討しながら整理を行った。最終的には、香取市の将来あるべき姿を表すフレーズを8つのグループからそれぞれフレーズ1つずつ、合計で8つのフレーズ案が作成された。

【圓藤委員】

今までワークショップのような形で市民意見を集約するという機会が少なく、今回のワークショップは良い機会だと考える。今後も積極的にワークショップやワールドカフェのような機会を設けてほしい。

【圓藤委員】

子育てに関して、香取市の取組みは不十分な印象を持っている。目標を設定するだけでなく、具体的な施策を講ずることが必要である。子供を産み、育てやすくすることを市の方針としているが、子育てに対する支援体制は十分整っていない。保育料の料金設定、発達障がい児など教育支援、子どもの早朝預かりサービスといった取組において、近隣市と比較して劣っている部分が見受けられ、解決のための対応を考えていく必要がある。

【堂下委員】

今回の会議の重要議題は、まちの将来像の設定、基本構想の骨子についてである。具体的な取組に関しては、各施策の達成状況の検証を行う機会が今後ある。現行計画上で達成できていない分野は、議事（3）の基本構想骨子の検討の中で、盛り込んでほしい。

【鶴崎委員】

読売新聞の千葉版において、ワークショップが記事に取り上げられたことは良かったと思う。ワークショップが時間内に終了しなかったとあるが、市長や副市長は、最後までワークショップ会場にいたのか。

【事務局（企画政策課）】

ワークショップの終了時刻を 12：00 と予定していたが、進行上の遅れが生じ、時間内に終了できなかった。ワークショップ当日、副市長が出席し、開会の挨拶後、公務都合により退席した。

【香取委員】

ワークショップ中の将来像フレーズを検討する過程で、フレーズの意図、思いとして「医療の充実」、「介護の充実」、「高齢者が住みやすい」などが挙げられているが、フレーズ決定の段階で、種々の課題に対する視点がフレーズから消えてしまっている印象を受けた。今後実施するワークショップで、課題の解決について話し合う回はあるのか。

【事務局（トーマツ）】

第2回市民まちづくりワークショップで市の課題を掘り下げ、第3回で課題解決に向けた取り組みを考えていくことを予定している。第1～3回のワークショップを踏まえた上で、第4回市民まちづくりワークショップで計画内容を確認し、ご意見をいただくことを予定している。

【香取委員】

第1回から第4回までの市民まちづくりワークショップ参加者は、各回異なる人で構成されるのか。

【事務局（トーマツ）】

市民まちづくりワークショップの参加者は、各回で同じ人もいるが、参加者それぞれの都合により、同じ人が参加できない場合もある。2回目以降に新しく参加する人員いれば、特定の回だけ参加する人もいる。

【堂下委員】

参考資料：香取市総合計画後期基本計画概要版で、重要な施策が示されているページがある。ここで示されている部分についても、課題として深堀、議論してほしい。

【椎名委員】

第1回市民まちづくりワークショップ参加者の居住地域の内訳は分かるか。

【事務局（企画政策課）】

参加者数は全32名。地域内訳は、佐原地域25名、小見川地域5名、山田地域2名、栗源地域0名。

【椎名委員】

香取市全体からバランスよく意見を吸い上げてほしい。第2回・第3回市民まちづくりワークショップでは、開催場所を市役所ではなく各支所とするなど、山田や栗源といった地域の在住者の参加を促してみてもどうか。

【堂下委員】

意見の聴取にあたって、統計的な処理をするため、人口構成の相似形でサンプルを取るという大原則がある。一方で、行政の取組を検討する際には、地理的区分によってサンプルを取ることも1つの視点であるため、検討してほしい。

【中村委員】

今回のワークショップの形式では、各班の構成員の意向が直接に反映されることになる。そのため参加者の班分けの方法が重要であり、参加者を年代別で分けるのが最も良いと考えられる。各班で、参加者の年齢層がまとまっている班と、そうでない班がある。今回のワークショップでは、参加者の班分けの方法が明確ではなく、出てきた答えも位置づけが明確ではない印象を受けた。また、参加者の年代として20代と50代の参加者がいないのが気になった。第2回以降のワークショップでは改善してほしい。

【堂下委員】

各班の参加者の構成が異なる中、どこの班からどのようにしてフレーズが作成されたかについて注意する必要がある。参加者の中に20代がいなかったということに関しては、今後の開催の際や検討の際に工夫をしてほしい。

議題（3）基本構想骨子（案）について

資料3「第2次香取市総合計画 基本構想骨子（案）」について、事務局が説明。

基本構想骨子（案）に対する意見・質問は特に無し。

現行案を経営戦略会議に提案することとする。

資料4「基本構想部分「まちのあるべき姿」を表すフレーズに係る検討の経緯」について説明。

【中村委員】

審議会の冒頭に、総合計画は市民意見を反映しながら策定されると説明を受けたが、市民アンケートを実施して市民全体の意向を把握するより前に「まちのあるべき姿」のフレーズを決定した場合、「まちのあるべき姿」のフレーズには市民全体の意見が反映されないということか。

【事務局（トーマツ）】

市民アンケートではなく、第1回市民まちづくりワークショップで意見を反映している。

【中村委員】

ワールドカフェやワークショップ等の取組みを実施しているが、それぞれの取組みのつながりが見えない。例えば、第1回市民まちづくりワークショップで出た8案が、どのようなプロセスを経て作業部会で14案になったかという説明がない。

【事務局（企画政策課）】

「目指すべきまちづくりの姿」のフレーズ策定プロセスに関して説明する。

1. ワールドカフェから第1回市民まちづくりワークショップ
ワールドカフェにおいて、検討の素材となるキーワード等を取りまとめた。第1回市民まちづくりワークショップでは、参加者にワールドカフェの取りまとめの提示と説明を行い、ワールドカフェの結果を基にフレーズやキーワードを検討した。検討の結果、8案が提案された。
2. 第1回市民まちづくりワークショップから作業部会
庁内検討組織であり班長職で構成される作業部会では、市民ワークショップで作成されたフレーズ8案のうち、参加者が最も共感できる案を選択し、市民の意図を損ねないよう配慮しつつ、フレーズをブラッシュアップした。結果、作業部会の案の合計として14案が提案された。
3. 市の全職員による投票を実施し、5案へ絞込み
作業部会で作成した14案について、市の全職員を対象としたアンケート調査を実施した。複数選択形式で投票してもらい、投票数上位の5案を選出した。
4. 研究推進部会による検討で、最終3案へ絞込み
庁内検討組織であり課長職で構成される研究推進部会では、市の職員の投票によって選ばれた上位5案を基にフレーズを推敲し、参加者の投票により上位3案を「目指すべきまちの姿」フレーズ候補として選出した。

高校生アンケートにより判明した意向は、「目指すべきまちの姿」フレーズ策定とは関係しておらず、計画策定の別の工程の部分で活用する。

【堂下委員】

今後、他の会議体での議論が策定のどの部分に反映されているか資料からわかるように記載していただきたい。

【鈴木委員】

「目指すべきまちの姿」のフレーズはどういう形で活用されるか。

【事務局（企画政策課）】

検討したフレーズは総合計画の「将来都市像」の「目指すべきまちの姿」に反映する。

「将来都市像」は総合計画の根幹となるものであり、施策や事業の策定の基礎となる部分である、そのためなるべく早い段階で定めたい部分である。

【圓藤委員】

フレーズに使われる「歴史」、「文化」、「自然」といった言葉は、歴史であれば佐原や香取神宮、文化であればお祭り、自然であればその中での活動といったように、イメージしやすいものである。一方で、それらを守る、次世代に伝えることは、人がいないと実現できないことである。自然を守る、文化を繋ぐために「人を育てる」という言葉をキーワード検討の視点に加えてほしい。

【堂下委員】

圓藤議員の思いは、フレーズ検討で活用していただきたい。審議会後にフレーズに対して言葉を加えたい場合は、後日事務局側に伝えていただきたい。

【椎名委員】

市民憲章は、フレーズ策定の際にも盛り込まれていくことになると思う。フレーズはしっかり時間をかけて1つにまとめてほしい。

【奈良委員】

市民まちづくりワークショップの結果を見るとB班、C班やD班ではフレーズに個性が見られ、言葉遣いも特徴的だが、「香取市を愛し続けてほしい」という香取市への愛情が感じられる。フレーズの表現に少しひねりがあっても良いのではないかな。

【鶴崎委員】

キャッチフレーズは簡潔なものであるべき。②案、③案が良いと思う。②案が簡潔で良いと思う。香取市後期基本計画の「将来都市像」を参照すると、読んだだけである程度まちのイメージが湧く内容となっている。新計画の構成で基本理念を削除するのであれば、将来都市像である程度まちをイメージしやすくなる内容にするべきではないか。フレーズの私案を検討してきたので参考にしてもらいたい。（「豊かな自然と歴史・伝統・文化で人とつながる 安心して暮らせるまち 香取」）

【事務局（企画政策課）】

基本理念は、香取市の各種計画策定の際に使われてきた。一方で、基本理念と将来都市像のどちらを優先するかがわかりづらいという意見をいただくことが多かった。第2次総合計画の策定では将来都市像のみとするが、基本理念が削除されたのではなく、基本理念を都市将来像の中に含めるという方針である。

「まちのあるべき姿」を表すフレーズの3案について

①案「住みたい！行きたい！輝きたい！人がつながる やすらぎの郷 かとり」

【圓藤委員】

市の名前の表記に関して、3案のうち漢字表記「香取」と平仮名表記「かとり」両方ある。①案のみ平仮名になっているが、意図があるのか。

【事務局（企画政策課）】

作業部会では、案の発表の中で、市の名前の表記について漢字表記と平仮名表記の理由に関する説明は無かった。単純に、見た目の見やすさを優先したものと考えられる。

【堂下委員】

市の名前の表記に関しては、ワークショップでの高校生の案を見ると、B班ではローマ字、C班では片仮名を使っている。高校生は異なる表記をしているという点に留意すべきである。もしかすると、今と違う香取というイメージを作りたいという意図があるかもしれない。

【中村委員】

①案と②案では「つながる」に込められた思い・背景が異なっているように思うが、どういう意味なのか。

【事務局（企画政策課）】

作業部会と研究推進部会で議論を進める中で、それぞれ「つながる」の意味について検討している。①案の「つながる」とは、連携と継承の両方の意図が込められていると発表されていた。②案の「つながる」とは、震災後に使われていた「つながる」の意味と類似しており、皆が一緒に手をつなぐような一体感を表現している。

【圓藤委員】

フレーズを検討するにあたって、各案を個別に検討する前に、各フレーズに出てくる同じ言葉の意味について整理するべきと考える。意味が違えば、違う言葉にしたほうが良い。「住む」「行く」という言葉は、香取市に外部から人がくるイメージの言葉であり、「輝きたい」という言葉は地域の人が満足した生活を送るイメージの言葉である。①案では「住みたい」「輝きたい」の主語

と「行きたい」の主語が異なるので違和感がある。「行きたい」は文脈を考えると「出て行きたい」と捉えられてしまうことがあるので「呼びたい」などに置き換えた方が良い。

【鶴崎委員】

「つながる」は多くの意味があるので、十分に検討して、誰でも理解できるような表現にするべきである。

【堂下委員】

前後の文脈も踏まえたうえで、市民への伝えかたを検討していかなければならない。

【堂下委員】

①案に関して、作業部会の案から「歴史文化・自然」が消えているが、元の「歴史文化・自然」という言葉の意味を含蓄する内容になっているのか。

②案 「人が輝き つながる 自然 歴史 文化のまち 「香取」

【堂下委員】

②案については、「自然 歴史 文化」という言葉が入っており、ワークショップからの市民の意図を生かすことができると考えられる。

【中村委員】

「歴史」「文化」「自然」は、今まで積み上げてきたものや香取市周辺の状況を指す言葉である。「輝く」「つながる」は人に焦点をあてた言葉である。2つの性質の異なる言葉が、一緒に並んでいるため、②案は漠然とした表現になっている印象を受ける。言葉の性質で、フレーズを仕分けたほうが良いと思われる。私案として「歴史文化自然に支えられ 人が輝くまち 香取」を挙げる。

【堂下委員】

指摘内容の「歴史」「文化」「自然」と、「輝く」「つながる」は確かに性質が異なる。これまでに出的キーワードとその理念を生かしながら、フレーズを検討する必要がある。キーワードがちりばめられているだけでは内容が伝わりづらいものとなるので、キーワードを組み合わせ、フレーズを作り、必要であればサブタイトルを作成する。

【奈良委員】

この後③案も検討するということだが、投票する案を選択するということか。研究推進部会が提案した3案について投票するのか、審議会で委員が提案している意見や案も含めた案に対して投票することになるのか。また、投票で決定した案が全く異なる内容に変更される可能性はあるのか。

【堂下委員】

基本的には研究推進部会で出された3つの案について投票を実施することになる。審議会の中で提案していただくことも可能であるが、後程、事務局に対して市の名前の表記の変更などを提案していただくことも可能である。ワークショップや作業部会、研究推進部会で検討した内容から全く異なる案に変わることはないと考えられる。提案された意見は、サブタイトルとして利用するなどの形で活用されることもある。

③案「豊かな暮らしを育む 歴史文化・自然の郷 「香取」～人が輝き 人がつながるまち～」

【圓藤委員】

次世代の育成という意味ではなく、「つくりだす」という意味で「育む」の言葉が使われている。フレーズの策定に関して、そのフレーズを見た人が、市が何をしようとしているかを言葉から想像できることが大事である。提案されたフレーズは説明されないとわかりづらい表現となっている。

フレーズ案全体に関する検討

【圓藤委員】

地域社会全体で、子育てや人材育成を掲げなければ人も集まってこないと考える。フレーズ検討では、いずれかのフレーズに「育てる」という視点を入れてほしい。

【奈良委員】

ワークショップでのB班、C班の案を見ると、若い人が香取市に対する思いを込めてフレーズ案を作成している。選出された案のように、固い表現でフレーズが決定すると、ワークショップに出てくる若い人たちのやる気を削いでしまうことが懸念されるため、若い人の意見を取り込んでも良いのではないかと。また、研究推進部会提出の案、①案、②案は似通った内容である。インパクトのあるものの方が良いのではないかと。

【事務局（企画政策課）】

市民まちづくりワークショップでのフレーズ案について、G班、D班の案を除き、「文化」「歴史」「自然」という言葉が入っており、この3つの言葉は市民ワークショップの中でも圧倒的な支持を受けている。支持を受けている言葉がフレーズに盛り込まれていないと、参加者側に、ワークショップでの意見が策定結果に反映されていないとされるおそれがある。また、今後の市民ワークショップで参加者のやる気を削ぐことにつながるのではないかと事務局でも危惧している。

【圓藤委員】

市民まちづくりワークショップで出たB班の案は、個人的には良いと思う。「歩む」や「育つ」などの言葉を高校生が挙げているのは素晴らしい。市の名前の表記に関しても、ローマ字は斬新で良

い。表記の方法にはメッセージ性があると思うので、ローマ字表記など市の名前の表記方法を変えるのもフレーズ作成の上でメッセージを伝えるための一つの方法であると考えている。

【圓藤委員】

投票で決定されていることから、研究推進部会のフレーズ3案には同じような表現が多く表れている。投票で決めようとする、似通った案が残る。一方で、一部だけ変更してもフレーズ全体のニュアンスが変わってしまうという問題点がある。

【堂下委員】

最終的なフレーズは庁議で決定することになるので、審議会で検討した案とは異なる案が採択されることもあり得る。基本的には、研究推進部会で提案された3つの案を基本として検討が進むと思われるが、奈良委員の指摘にあった若い世代の意見が反映されていないという意見などを踏まえ、研究推進部会の3つの案の変更も視野に入れ検討していただきたい。

【石井委員】

「目指すべきまちの姿」のフレーズを考えるにあたり、豊かな経済活動や生産活動ができることを念頭に入れてほしい。

個人的には③案が良いと思うが、その「豊かな」という言葉の中に、香取市が経済活動や生産活動のできるまちであることをアピールする要素を盛り込むような工夫が欲しい。

【堂下委員】

市民まちづくりワークショップB班、C班の意見が注目されているが、どちらも地域として発展・成長していきたいという意見である。地域としての経済発展のほか、雇用のことなどを踏まえた言葉を取り入れても良いのではないかと。

【奈良委員】

市に愛着や思いがなければ、誰も住み続けないと思う。フレーズには住む人が愛着を示すような言葉を入れてみてはどうか。

【堂下委員】

市民まちづくりワークショップB班の案をそのまま使うことは難しいが、その思いは汲み取りたい。事務局には、研究推進部会提案の3案の他に、ワークショップのB班やC班が提案した要素を踏まえた案を検討して欲しい。

【中村委員】

審議会としての案を決定する際に、事務局が修正した3つの案だけではなく、審議会で検討した内容を基に各委員がそれぞれ1つ案を出し合った上で、各案に投票し、審議会案を決定するのはど

うか。

【圓藤委員】

新たな案の提案の際には、核となる単語や方向性を示した上でフレーズの検討をするのが良いと考えている。投票をもって決定するのではなく、中身のある決め方をしても良いと思われる。

【堂下委員】

案の追加については、市民まちづくりワークショップや作業部会、研究推進部会といったこれまでのフレーズ案の検討のプロセスも重視した上で、検討する方向で進めてほしい。場合によっては、市民まちづくりワークショップの検討結果を利用し、内容の再構築をした上で追加案を検討してほしい。

【事務局（企画政策課）】

総合計画審議会の最終的な案としては、今回の審議会を踏まえ修正した研究推進部会提案の3案に加え、市民まちづくりワークショップB班、C班の意見を踏まえた案、そして後日委員から提案された案、これらに対して投票を行い、決定とする。7月中に追加意見の集約と投票を行う。投票された結果に関しては、事務局側で数案まで絞込み、最終的に庁議で1つの案を決定する。

4 閉会

企画政策課長の司会進行により、閉会。

以上